

荒川区区政改革懇談会

第8回福祉・健康・子育て分科会 議事要旨

【日時】

1月19日(金) 10:00~12:00

【場所】

荒川区役所 3F 議員待遇者控室

【次第】

ステップ1：今日のプログラムの説明

ステップ3：その他

ステップ2：提言(たたき台)についてのフ
リーディスカッション

ステップ1 今日のプログラムの説明

本日は、これまでのディスカッションを踏まえ、提言(たたき台)について話し合いたい旨説明があった。

ステップ2 「福祉・健康・子育てのあるべき姿」「今後の方向」のフリーディスカッション

- ・たたき台をもらって個人的な意見だが全体的に読んでもよく分らない。これをまとめる時、分量とかページ割とかを先に意識して作った結果だと思うが、提言部分で文章が圧縮、体言止めが多用されている。例えば7ページ下から3行目の「・・・想像力が乏しい」と「親が甘やかせて・・・」の部分の論理的なつながりがなくて理解不能の状態だ。より具体例をまじえて読みやすくしてほしい。
- ・方向としては様々な要素も入っているのでこれでよいのではないかと。ただ抽象的な部分もあるので、皆で補完して具体的にできればよりありがたい。
- ・福祉・健康・子育て分科会のたたき台としては読みやすいし分量的にはこの位がよい。ただ、今までの会で言っていることと違っている部分があったりダブっている点があれば議論の中で直してほしい。また、この会に参加していない人も理解できるように提言部分を簡略化しすぎないで、もう少しふくらませてほしい。
- ・7ページの最後の行で「荒川区子どもの悩み 110 番・・・を実施している」の部分は期間限定でやったもので完全に誤りだ。いじめというのは期間限定でなく深刻な問題であるので是非ともキチンと取り組んでほしいし、区長たちがこれを読んで政策反映させるのだから継続すべきと書くべきだ。
- ・基本的部分はお任せするが高齢者のところでケアマネジャーとホームヘルパーがあるが、私はホームヘルパーの教育に絞った項目があってもいいじゃないかと思う。もっと我々は話し合っって掘り下げないといけないと思う。
- ・ショートステイについて、利用した人が1週間後に退所する時、翌月の利用日をおさえ

てしまうので新規に予約したくてもなかなか予約できない状態になっている。これは支える家族の結婚式や、普段やっている家族介護から解放される手助けになっているのは良いけれど、利用する人が固定している。申込制度そのものを再検討する必要があり、その対応策を盛り込めば読んだ人も理解できる。

- ・この検討会に参加しているが非常にまとまっていて良いと思う。ただ提言を読んで私だったらこうするという具合に、もう少し細かく提言していたら更に良いと思う。
- ・なかなかこの会に参加できないので、こういう話し合いをしていたのだということが分かったが、もう少し具体的なアイデアがあった方が良い。例えば「だからどうすればよいのか」という点が詳しく書かれていない。
- ・書き方の問題で5ページの下から7つ目の 印「無農薬の野菜・・・」と6ページ下から4つ目の 印「農家と連携して・・・」のつながりをイメージさせる書き方があればこの会に参加していない人でもより理解されると思う。
- ・先ほどの「子ども110番」の件は子どもが持ってきたプリントでは、引き続きやるということなので、今ホッとしているところである。6ページの水の問題について、水をきれいにすると洗剤を使わないで重曹を使えということではなくて、有害化学物質を含む洗剤を使わないということである。自然破壊しなければ少し高くても安全なものを使っていこうと呼びかけることである。
- ・同じ水の問題で消毒剤としての塩素はアトピーを引き起こすというが、水は今、非常に危険な状態になっているのではないか。アトピーとか花粉症は発展途上国にはないのではないか。
- ・先進国では安全なものへ転換されているが、日本はその点で遅れていると海外の方たちから不思議がられている。
- ・今、食とか環境の問題は基本的にゆがんでいる。牛乳などたった1日の消費期限切れを使ったということで大騒ぎしている。
- ・もちろん営利目的の企業がしていたら許されないが、個人レベルで考えると基本的に感覚がおかしくなっているといわざるを得ない。
- ・もっと近場の野菜を食べようと言ったのは、近くの農家が作っているという意味でなく、もっとグローバルなエコロジーの観点での食教育の話である。例えば、モーリシャスのたこの輸入の話だと、このまま輸入が続けばモーリシャスのたこの資源は枯渇するらしい。
- ・給食の残りを肥料にする提言について、せっかく肥料を作っても化学肥料に比べて安定性に欠けるため農家を使用しないという。安定性にかけるということは、年によって作柄や品質にムラが出てしまうので、その曲がったキュウリを母親が買うかというところでは買ってくれない。この買ってくれないという点が問題なのだ。
- ・自然公園や荒川遊園地で腐葉土がたくさんつくられているが、もっと区報などに積極的に載せて必要な人が必要な時に入手しやすくする流れが必要で、全部がチグハグとなっている。必要なことは、循環するエコロジーシステムを確立することである。荒川区が率先してやれば全国に広まっていくと思う。

- ・介護ヘルパーについて、近所のおばあさんは退院したての頃、週2回2時間ほどヘルパーが来ていたが、最近は元気になってきたので今では週1回1時間になった。ヘルパーの仕事は以前いろいろやってくれたが、最近は話だけで帰ってしまう。これをやると何ポイント、あれをやると何ポイントと事前に決まっています、その何種類かの合計で介護報酬が支払われるので、決められたこと以外は一切やらないという。善意でやってくれるヘルパーもいるらしいが、要は人間性の問題もあるのではないかと。
- ・何かもやもやした部分をスパッと切り分けること自体に問題があるのかなと思う。
- ・もともと介護保険制度は、基本的には懐疑的である。今の話の通り何と何とで何点、これはいくらであればいくらですという具合にルール化されているので、果たしてそのルールだけで、ヘルパーが今まで親子として接してきた分野にまで踏みこめる制度なのか。
- ・ケアマネジャーが認定したこととヘルパーのすべき介護とかニーズにミスマッチがある。
- ・荒川区全体のヘルパーを一堂に期間限定で集めて教育を行ってほしい。
- ・根本的には人と人とのインターフェイスの問題だが実際の問題として、ヘルパーの質の問題とか本質的に気が合わない時などはケアマネジャーを通して変えてもらえるのか。
- ・ケアマネジャー自体も変えてもらえるけれど、現在のヘルパーに嫌われたくないので現実としては言えない。ところで介護保険料は区に払っているが、ヘルパーはどこから支払われるのか。

介護保険制度は、要介護認定を受けた人がケアマネジャーに計画を立ててもらい、ヘルパーはその計画に基づいてサービス提供してポイント制によって介護報酬として支払われる。支払い方法は、ヘルパーが所属する民間事業者を経由する。従ってケアマネジャーやヘルパーとは要介護認定者本人との自由契約の上に成り立っているので、制度的にはケアマネジャーやヘルパーは変えられる。

- ・荒川区ではサービスを受けたい人が施設に入るのに現在、順番待ちはどのくらいの人数なのか。

現在、特別養護老人ホームの入所待機者は600人強くらい。

- ・ショートステイについて、利用者が固定して新たに申し込めない状況になっていると言われている。
- ・サービス終了後にアンケート用紙を置いてきて具体的事例を書いて投函してもらい、そういう機関で集計や公表するといった仕組みを作ったらどうか。
- ・高齢者とか障害者自らがアクセスしないと分からないという情報の接し方の制度では、十分に目的が機能してないのではないかと。重度者用のベッドの空き具合とか風呂に週何回入れてくれるのかという情報が必要である。
- ・業者を変えたいとかの要望があった場合、現在の受け入れ余裕はどうなっているのか。業者の数から十分対応できると思う。
- ・ヘルパーは来てみなければ分からないではなく基本的に人対人なので、登録業者ならなんでもよしとすることは無理。マンパワーとして十分に足りていても当然質の問題が連鎖してくる。
- ・ケアマネジャーのプランでこの業者ですと言われても本当にだめな時、断れない人は選

ぶ側の論理、つまり選択のシステムがないとケアマネジャーと民間業者のタイアップという状況が発生するのではないか。

- ・ケアマネジャーにも当たりはずれがあるので、不定期に訪問して「どうでしたか今日のサービスは」といった調査をするGメンみたいな人が必要なのではないか。パレートの法則というのがあって2割の苦情を片付けると8割の苦情は片付いたとされる法則で、面と向かって言えない人の苦情も2割の物言える人が代弁してくれる。
- ・学校教育法で特別支援学級の制度が変わって、心障学級が普通学級に編入されていく。
- ・編入されると障害児が、はつらつとした健常児にいじめられないか心配で健常児に対しての教育が必要だ。これは先生の問題ばかりでなく親の育て方の問題もある。
- ・親の目は集団の中に子どもがいると行動が分らない。
- ・確かにいじめはいけないし「人には優しく」はスローガンとしては大切なことだ。しかし完全になくすのは無理なことで、逆にこの人間社会でのいじめは携帯やネットに沈んで表面的には見えてこない面もある一方、一人の先生が40人の行動を把握するのは不可能な話だ。ちょっとでもいじめがあるとダメといった雰囲気では根本的な改善につながらないと思う。
- ・心障学級という位置づけが変わって特別支援学級となり一般学級に編入されということで、心障学級という名前が消えるということだ。
- ・確かに昔は心障学級と一般学級は分かれていて、ある行事とか授業も一緒にやっていた記憶があるが、現在は法律までいじらなければ編入できないのか。
- ・ケンカも昔は同じくらいの力のある者同士がやった。泣いたらそこで止めるというルールがあり、今みたいに弱い者をしかも集中でやっつけるということは無かった。
- ・現在はハンディのある人にやさしくは伝説か神話の世界になってしまったのではないか。
- ・障害児と健常児は本当に分かり合って仲良く暮らしていけないのか。
- ・一人ひとりに手を差し延べることはできないが、子どもたちやその親たちにも障害児の実態を理解させる必要がある。
- ・健常児が障害のある子を見下げるという態度は非常に悲観的になるが、それをなんとか改めてお互いに良いところを分かり合えるような場所があるといい。
- ・養護学校に通わせている親は健常児と一緒に育てたいと考えているのか。
- ・大阪でもあったように前科6犯の障害者の殺人事件だが、障害を持つ人と刑法39条の問題もあるが、まちの中で暮らしていくというのは非常に危険性もはらんでいる。
- ・確かに怖い面もあるが統合教育を希望する。なぜなら統合教育から健常児も障害児から学ぶべき点はたくさんあるからだ。例えば健常児が手のない人を見て、自分は手があるのは当たり前になっているけれど、その手のある人がない人を見て何かを手助けしようかと学んでくれればいいなと思う。
- ・もう少し接して助け合って生活していくということを学習する為にも一緒にいる機会が必要なのではないか。
- ・おもちゃ図書館で毎週定期的に小学校入学前の子どもたちが、たまに障害児と一緒に集まっている。しかし、おもちゃ等で遊ぶのでその子どもたちが小学生になると身体を使

った遊びになることから来なくなり障害児はかわいそうだ。

- ・ 障害児をおもちゃ図書館へ連れて行っても一緒には遊ばないと思う。非常に難しい話しであるが、ふれあう場所もなければ情報も無い状況なのだ。
- ・ 障害を持つ子どもの親の話したが、養護学校へ障害児ばかり集めてバスで通学しているので余り健全児と交わる機会がない。しかし、養護学校には専門的な先生がいるので安心だそうだ。
- ・ そこでは生活実習もやっているが障害の程度にばらつきがあり、軽度で心障の人は養護学校を卒業して就労支援を受けるまでいくという。

ステップ3 次回の討議に向けた話し合い

- ・ 今日の頂いた意見を踏まえて提言をまとめていきたい。
- ・ 本日配った資料にもう一度目を通してもらい、1月末を目処にファックス・メール・郵便いずれでも結構なので具体的な提案や表現方法、また、めざすべき将来像の扱いについても考えていただきたい。

ステップ4 その他

- ・ 次回9回懇談会は、2月16日(金)10:00~

以上